

My Favorite Place

八戸薬剤師会 郡川 康

私には、理由もなく「ただ、行きたいな」と思う場所があります。それが、八戸の種差海岸です。

海のない十和田で育った私にとって、目の前に広がる大きな海は、それだけで特別なごちそうでした。八戸に来てからは、嬉しいことがあった日も、少し心が疲れた日も、気づけば車のハンドルをそちらに向けている、そんな大切な場所になりました。

もちろん、昔から知らなかったわけではありません。小学校の遠足では定番の場所でしたから。でも、大人になってからはすっかりご無沙汰。そんな私が再びこの場所へ通うようになったのは、親になったのがきっかけです。「お金もかからないし、子供を思いっきり遊ばせるには最高だ！」なんて、理由は単純でしたが、それがかえって良かったのかもしれない。

私が子供の頃に見た種差海岸は、本当に広々としていて、良くも悪くも「何もない」場所でした。それが今では、お洒落な休憩所やカフェができて、すっかり素敵な雰囲気になりました。日曜には朝ヨガやイベントが開かれていて、たくさんの人で賑わっています。時代の流れと共に風景は変わりましたが、私にとって、ここはいつまでも変わらない「お気に入りの場所」なのです。

波打ち際に座って、ただ海を眺める。水平線の向こう側を想像してみたり、波の音を聞きながら「生き物のルーツは海なのかなあ」なんて壮大なことを考えてみたり。そんな、とりとめのない時間が、私にとっては最高の贅沢です。

最近、心を奪われているものがあります。鳥瞰図絵師・吉田初三郎の作品です。彼が生きた時代には、今のようには景色を見られなかったはず。それなのに、どうしてあんなにも温かく、立体的に街を描けたのだろうと、その絵を見るたびに不思議な気持ちになります。きっと、彼には特別な「目」が備わっていたのでしょうね。そして、彼はこの種差海岸の絵も描いているのです。もし八戸に来られることがあったら、ぜひ彼の絵と実際の風景を見比べてみてください。きっと、旅が何倍も楽しくなるはずです。そういえば、子供と二人で、わざわざ電車とバスを乗り継いでここに来たことがありました。車ならあっという間の距離ですが、ゆっくりと車窓を眺め、バスに揺られて帰る道のは、忘れられない親子の「冒険」になりました。たまには便利な車を置いて、のんびりと時間をかけて旅をする。そんな寄り道の中にこそ、素敵な出会いや発見が待っているのかもしれない。